日本協同教育学会 会員向けニューズレター

JASCE NEWS

学会ホームページ http://jasce.jp

068号（2022年11月30日）

目次

就任のご挨拶
第18回全国大会報告
『協同と教育』への投稿募集中
各地の研究会・勉強会
出版情報

就任のご挨拶

髙旗浩志（岡山大学）

このたび、第7期の会長をお引き受けすることになりました。私は2004年の学会創設と同時に入会し今日に至ります。私を育ててくださった本会にご恩返しできる機会を頂き、とてもありがたく思っております。何卒よろしくお願い申し上げます。

安永悟前会長、関田一彦前事務局長には、コロナ禍というたいへん困難な状況の中、本会をたゆまず牽引して頂きました。心より御礼申し上げます。また、第6期の役員をお務め頂いた理事の皆様にも、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。コロナの終息はその兆しさえ見えませんが、前役員の皆様のご尽力を無駄にすることのないよう、精いっぱい引き継いで参ります。

第7期役員の任期は2022年度後期から2025年度前期までの3年間です。副会長を水野正朗先生（東海学園大学）、事務局長を舟生日出男先生（創価大学）にお引き受け頂きました。さらに12名の先生方に理事就任を、新たに3名の先生に委員就任をご快諾頂きました。とても心強く思っております。役員名、委員名は学会HP(https://jasce.jp/1022gaiyou.php) に掲載しておりますのでご確認ください。

さて、本会はコロナ禍当初の2020年度、やむを得ず大会開催を中止した経緯がございます。そのため学会創設からの年数と大会開催数の数字との間にズレがあります。第7期の任期中、来年度の2023年度は学会創設20周年、再来年度の2024年度には第20回大会という大きな節目を迎えます。これを踏まえ、第7期ではこれまで以上に活発な研究・実践交流を促進するとともに、新たな時代にふさわしい持続可能な学会運営のあり方を見出して参りたいと思います。

会則第3条に示すとおり、本会の目的は「互恵的な信頼関係を基盤とした協同に基づく教育・学習環境の創造・実践・普及を通し、民主社会の健全な発展に寄与すること」にあります。しかしいま、自由で公正な開かれた民主社会を脅かす事態が、国の内外を問わず、またあらゆる分野・領域で生じています。この困難を克服する理念と手立てこそ「協同」です。「教育」は何も「学校」の専売特許ではありません。人と人とが関わり合うところに生まれる知識の受け渡しと創造の営みこそ「教育」です。そこには自ずと自由で創造的な「協同」が必要です。このことを思い出し、実践することが、いまの困難を克服することに繋がると確信します。決して管理や強制や懲罰で動かしてはなりません。ましてや「脅しと忖度」であってはならないのです。

私たちが育みたいのは「おとなしく教えられる客体」ではありません。「自ら学習する主体」を育みたいのです。誰かが何かを学ぶには、「できない・わからない」と自己開示できることから始まります。他人に「できない・わからない」を知られることはとても恥ずかしいことです。とりわけ学校は「できないこと」を「できる」ように、「わからないこと」を「わかる」ようにする場所です。つまり、まず「できない・わからない」に出会わせてしまうのです。そこには常に「傷つき」が伴い、また「恥ずかしい」が伴います。しかし、そんな自分を安心して開かせてくれるものは、元会長の杉江修治先生の言葉を借りれば「支え合い、助け合い、そして高め合う厳しさを許し合える人間関係」なのです。そしてこの人間関係は、一人一人が互いに勇気をもって「できない自分・わからない自分」を開き合うことで紡がれるのです。

10月末、文科省の調査が公表されました。小中の不登校者数が初めて20万人を超え、また「いじめ」の認知件数も60万件を超えたとのことです。コロナ禍を考慮しても相当な増加です。医療、心理、福祉、法律等、学校外の専門家と学校との緊密な連携協力は質・量とも高度に充実・展開しているはずです。しかし問題の解消はいっこうに実現せず、むしろ問題と社会的におつきあいする仕方が常態化し続けている現状に慄然と

JASCE

します。想定される要因は多岐にわたるはずですが、私たちは多様な他者とともに学ぶことの豊かさとその意義を恢復させなければなりません。学校を離れ、他に居場所を見つけることのできた子どもたちは、そこで誰かと関わり、豊かに何かを学び合っています。自由で柔軟で強靭な協同の実践とは何か、これを支える理論は何かを考え抜き、生み出し、実践し、世に問い続けること、これが本会の使命です。

幸い、本会には学校教育、語学教育、初年次教育、教師教育、看護教育、特別支援教育、社会人教育等、様々なフィールドでご活躍の方々が集っておられます。主役は会員の皆様です。この学会を起点に会員の皆様が様々な場でご活躍頂けるよう、その基盤づくりに今まで以上につとめて参ります。何卒よろしくお願い申し上げます。

第18回全国大会報告

大会テーマ：「これまでの学び，これからの学び」

オンラインによる全国大会を2022年10月29日（土）・30日（日）に開催しました。2日間を通して141名（会員121名・一般参加20名）のご参加がありました。会期中、5つの自由研究発表分科会（発表件数22件）、ワークショップ4件、ラウンドテーブル6件のご発表をいただきました。

大会初日の午後、名誉会員推戴において、伏野久美子元理事に名誉会員の称号を贈らせていただきました。伏野先生は、主に協同教育学会の国際渉外の任に当たられ、特に2019年3月、国際協同教育学会（IASCE）と日本協同教育学会（JASCE）が台湾において共催した国際大会「東アジアと世界の協同学習：卓越性の獲得と持続」を成功に導かれるなど、本会の発展に永年ご尽力いただきました。総会では、高旗浩志会長（岡山大学）から会長就任の挨拶と学会新体制についての報告があり、選任された理事15名が会員に紹介されました。

総会後の大会記念講演には、奈須正裕先生（上智大学教授・中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会委員）にご登壇いただきました。テーマは「個別最適化時代に協同学習に期待すること」でした。個別最適な学びと協同的な学びを別枠にしないで一体的に充実させるということはどういうことなのか、個別最適な学びは日本の教育実践に確かに含まれていたものではあるが、これまでの学びを生かして、これからの学びをどう進めるべきかなどの重要な議論が、原田信之会員（名古屋市立大学）の司会のもとで展開しました。次代に求められる協同学習を考える上で刺激的な内容でした。

昨年に引き続いてのオンライン開催でした。前回大会の経験が参考になりましたが、それでもどのように大会運営を進めるのがよいだろうかと悩む部分がありました。発表者ならびに司会者の皆様には、事前の接続テストにご協力いただきました。コロナ禍のなかでオンラインミーティングにも次第に慣れてきているとはい

JASCE

え、司会者のみなさまは、司会に加えて各会場のシステム上の管理も担っていただき、ご苦労をおかけしました。厚く御礼申し上げます。

分科会設定数、参加者数、発表件数などの大会規模は前回とほとんど変わらず、どの分科会においても活発な議論が行われました。これらのことはひとえに会員各位のご協力の賜物です。

本大会では3つの出版社様に協賛広告のご支援をいただきました。さらに、オンライン大会の円滑な実現については、前回大会に続いて（株）EPOCH-NET社のご協力がありました。本大会に参加された方、発表された方、司会をされた方、裏方を務めた大会実行委員・学会事務局、今大会の成功に向けてご尽力くださった全てのみなさまに重ねて御礼申し上げます。

次回の全国大会は、 比治山大学（広島市）で開催されることが内定しています。次回は対面でお目にかかることができるものと信じています。本学会を今後ともよろしくお願いいたします。

日本協同教育学会第18回大会実行委員会

委員長：水野正朗(東海学園大学)

『協同と教育』への投稿募集中

『協同と教育』への投稿を随時受け付けています。次号は第18号が刊行されますが、投稿受理から査読を経て採択が決定されるまでに通常数ヶ月以上を要するため、掲載はそれ以降の号になる可能性があります。みなさまの積極的な投稿をお待ちしております。

各地の研究会・勉強会

（大阪地域）

協同学習を用いた看護教育研究会

◇第45回研究会は11月26日（土）14：00～16：30、企画・進行担当は織田千賀子先生、 小八重和子先生、牧野典子先生で、オンライン開催としました。

テーマは「LTD話し合い学習法の体験」、課題文は『日本の協同学習』p101-102、文教大学教授、会沢信彦先生のColumn「アドラー心理学と協同学習」を使わせていただきました。参加者はLTD過程プランに沿って予習をして集い、実際にミーティングを体験しました。詳細は次号でご報告させていただきます。

◇次回の第46回研究会は、2023年1月21日（土）14：00～16：00、企画・進行担当は卜部紘子先生、堀川眞知子先生です。開催方法は、COVID-19の第8波に対する感染予防のため「オンラインでの開催」と致します。企画のご案内は12月に配信させていただきます。皆様のご参加を楽しみにお待ちしております。

連絡先：代表　緒方 巧(t-ogata@baika.ac.jp)

きょう探研（きょうどう探究型授業づくり研究会）

◇〔きょう探研〕の対話型研修会（通称　きょう探鍋）を、2022年10月15日（土）14時～17時に開催しました。今回の研修会は、メインテーマを『自由進度学習における協同的な学びとは』と設定しました。今回もオンライン開催ということで、地域を問わず幅広い参加がありました。特に「自由進度学習」を研究テーマにしている、東京の大学生の方2名（1名は当日欠席）に参加していただけたことが収穫でした。

当日は、自由進度学習の先行事例についての紹介の後、実際に中学校の英語の授業において、「自由進度学習」の考え方に基づく実践をされた先生から、報告をしていただきました。また、その実践に対してのアンケートを分析・考察したものを、共有しました。

今回は実践事例や報告等が多くなり、やや交流の時間が少なくなったのですが、テーマを絞ったことで、内容についての理解や思考は深まったような気がします。ただ、やはりオンライン上では、十分に対話が深まらない部分もあり、対面での話し合いの良さを改めて実感しました。

連絡先：代表　中村哲也（常磐会学園大学　nani7272@yahoo.co.jp）

（岡山・中国方面）

協同学習研究会

◇今後の開催予定

今年度中はオンライン開催の予定です。関心をお持ちの方がいらっしゃいましたら、高旗浩志（岡山大学教師教育開発センター）までご一報ください（takahata@okayama-u.ac.jp）。参加申込方法等をお知らせ

JASCE

します。いずれも土曜日14時～17時30分です。

第3回：12月3日（土）

話題提供者：久常俊作先生（倉敷市立玉島北中学校）

教科・単元名：社会科・地理「中部地方」

学年：第2学年

久常先生よりコメント ： 本校の研究主題の中に「主体的な学び」があります。生徒一人一人が、自分で考えること、それを伝えること、相手の意見を聞き、自分の考えをさらに高められることを意識した授業展開を考えています。生徒自身による準備学習（教科書をよく読んで、いくつかの項目についてまとめておき、わかりにくかった点を挙げておく）が本時の取り組みにつながる様子や、班での学び合い、その後の発表等、学習者主体の授業の実現を目指すための工夫をご覧いただきたいと思います。よろしくお願いします。

第4回：2023年3月4日（土）

話題提供者：東原猛流先生（瀬戸内市立牛窓西小学校）

学年：2年生

教科・単元等 ： 改めてお知らせします。

（九州地域）

協同教育研究所「結風」主催「協同教育研究会」

◇第56回目となる本研究会を「対面」で実施することにしました。対面での開催はコロナ後初めてとなります。日時と場所は、以下の通りです。皆さんの参加をお待ちしています。

日時 ： 2022年12月10日（土）13時～16時（情報交換会 16時～17時）

場所：久留米大学御井本館3階13BC教室

詳細は「結風」のホームページ(http://yuikaji.me/)をご覧ください。

問合せ先 ： ご不明な点があれば、次までお願いします。協同教育研究所「結風」office@yasunaga.me

（全地域）

全国看図アプローチ研究会

◇『全国看図アプローチ研究会研究誌』15号を公刊しました。看図アプローチに関心はあるけれど「ビジュアルテキストの見つけ方が難しい」「発問のつくり方が分からない」。このように考えている先生方は多いのではないでしょうか。前田敏和・溝上広樹の第1論文はそのような先生方にたくさんのヒントを与えてくれると思います。第2論文・第3論文も応用性の高い好論文です。

http://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.15.pdf

掲載論文

1. 高校化学における看図アプローチを活用した授業実践－イオン化傾向とその社会での利用を学ぶ－
http://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.15_pp.3-9.pdf
（前田敏和・溝上広樹）

2. 看図作文を大学授業の期末レポートに活用する試み－森 寛の中学校授業を参考にして－
http://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.15_pp.11-44.pdf
（石田ゆき）

3. 幼児教育における安全管理に関する授業実践－看図アプローチからの新たな学び－
http://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.15_pp.45-50.pdf
（仲村 彩・山下雅佳実）

4.編集後記（鹿内信善）・奥付
http://kanzu-approach.com/journal/journal-vol.15-henshukoki.pdf

連絡先：研究会事務局長 山下雅佳実（a-yama@nakamura-u.ac.jp）

● 出版情報 ●

隣の先生に学ぶ　心理学ベースの授業づくり

著者は教職大学院の研究者教員（教育心理学・認知心理学）。大学院生（小中学校教員）の授業づくりを指導し伴走する中で触れた児童生徒や教員の姿を、心理学者の視点を生かしながら、1項目＝1頁のエッセイ風に描いている。「第3章　ともに学ぶ」では、ペアやグループでの学習活動がうまくいった場面、停滞した場面、授業に工夫を凝らす教員の姿が取り上げられる。「隣の先生」の授業をちょっと覗いてみる感じで読むうちに、自分の授業を振り返ることにもつながる。校内研究に役立つ内容、用語集、ブックガイドも充実している。　佐藤浩一 著。あいり出版。